

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1339 号	氏名	相原 希美
学位審査委員	主査 塚元 和弘 副査 川上 純 副査 山吉 麻子		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、イムノコンプレキソーム解析法の前処理操作を一新することで、免疫複合体抗原検出の選択性と感度を向上させて病態解析法としての有用性を高めようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>従来の前処理操作では、捕集ビーズの表面で免疫複合体の酵素消化を行って抗原のみを検出していたのに対し、消化酵素の前に抗体のヒンジ部分を切断するプロセスを加えたこと(Papain 法)で、抗原をより選択的かつ高感度に検出するアプローチは合理的といえる。さらに、酸性化によるタンパク質変性と酵素消化による抗体分解後の抗原検出法も追加し、これら三者を比較検証している点も素晴らしい。</p> <p>また、免疫複合体モデルによる基礎な検証からヒトプール血清での実用的な検証を網羅した研究デザインとなっており、網羅性を担保する複数の捕集ビーズにおいても比較検証したもので、研究手法も妥当といえる。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>消化酵素の前に抗体のヒンジ部分を切断するプロセスを加えた Papain 法が最も免疫複合体を構成する抗原の選択的検出に優れ、非特異的吸着タンパク質や遊離抗体の影響を受けにくい前処理操作であった。一連の検証および考察過程は論理的に説明され、参考として示された応用研究において優位性と実用性が実証されたことから、今後の臨床応用への展開と実装が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は、免疫複合体の抗原検出に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(薬学)の学位に値するものと判断した。</p>			